

協働事業「『多様な性』を知るための 市民・市職員向け啓発事業」成果報告

1. 事業の目的と内容
2. フィードバックから見えてきた「現実」と「課題」
3. 今後の取り組み

もっと多様な、社会へ、未来へ。



DIVERSITY LOUNGE TOYAMA

実施団体：

ダイバーシティラウンジ富山

0. はじめに

協働事業名：「多様な性」について知るための市民・市職員向け啓発事業

実施団体名：ダイバーシティラウンジ富山

担当課名：市民生活相談課、男女参画・市民協働課

1. 事業の目的と内容

(1) 事業の目的

富山市の市民・市職員が、「多様な性」や性的少数者の社会的ニーズについて、最新かつ適切な知識を得ることのできる機会を持てるように、以下の取り組みを実施すること。

1. **市職員**を対象とした講演会、およびその後のフォローアップ（疑問点への回答や追加の情報提供など）を実施し、「多様な性」に関する知識や、業務上必要とされる**対応能力**の持続的な向上をはかる。
2. **市民向け**にも、講演会の開催、およびアクセスしやすい公共スペースでのパネル展示等を通して、**多様なニーズに応じた学びの機会**を提供する。

1. 事業の目的と内容

(2-1) 事業の内容：第1回パネル展

メッセージ写真パネル展“CLOSET IN HOKURIKU”
とSDGs啓発パネルの展示（2019年8月27-30日、富
山市役所1階多目的ホール）



「多様な性」について知るための啓発事業パネル展示

この展示は、富山市とダイバーシティラウンジ富山の協働事業「多様な性」について知るための市民・市職員向け啓発事業の一環として行われています。「多様な性」に関して適切な知識を得る機会はまだ十分とはいえない状況です。この展示を通じて多くの皆さんが最新かつ適切な知識を得ることができれば幸いです。



～8月30日（金）
ル
いただけます。）
）
異なる展示内容となる予定です。）
ール
ーシティラウンジ富山のブログ、SNS でご確認ください。
aldtoyama/
問い合わせ 市民生活部市民生活相談課
TEL 076-443-2045

1. 事業の目的と内容

(2-2) 事業の内容：市民向け講座

講演「多様な性を生きる：知っていますか？ SOGI・LGBT - LGBT・性的マイノリティの日常生活の課題から -」（2019年10月5日、CiCビル 3F）

「誰もが生きやすい街」のために - 市民向け講演会 **参加無料**

多様な性を生きる：知っていますか？ SOGI・LGBT

- LGBT・性的マイノリティの日常生活の課題から -

「カミングアウトして欲しいのに」「困りことがあるなら」相談さえあれば…」LGBT等の性的マイノリティ当事者に対しては、そのような声も聞こえてきます。しかし、当事者の中には、誰にも相談できない・しなま孤立し、悩みを深めている方も、たくさんおられます。そのような状況に追い込んでしまう社会背景を知り、誰もが生きやすい街づくりのために何ができるのか、参加者の皆さまと共に考えたいと思います。

講師 いがらし 五十嵐 ゆり さん
レインボウノッツ合同会社代表、NPO法人 Rainbow Soup 理事長

日時 2019年10月5日(土)
14:00~15:30

場所 とやま市民交流館
市民学習コーナー 学習室
(新富町1丁目 CiCビル3階)

バリアフリー対応会場 **手話通訳あります**

●定員 100人 (先着順)
※お申し込みは不要です。定員を超えた場合、入場を制限させていただきます。

お問い合わせ先
富山市市民生活部市民生活相談課 TEL: 076-443-2045
ダイバーシティラウンジ富山 E-Mail: lounge.toyama@gmail.com
※この講演会は、富山市公費提案型協働事業『多様な性』について知るための市民・市職員向け啓発事業の一環として開催されるものです。



性の多様な性に理解
市民向け講演会

富山 性の多様な性に理解を深める市民向け講演会が5日、富山市のとやま市民交流館であり、福岡県を拠点にLGBT(性的少数者)関連の啓発活動を行うレインボウノッツ合同会社代表の五十嵐ゆりさんが講演した。写真。

五十嵐さんはレスビアンとしての体験を紹介。周囲に打ち明ける難しさがある現状を指摘し、LGBTの人が安心して相談できるよう「理解者であることを表明してほしい」と語った。打ち明けられたときは受け入れながら話を聞くことや、異性愛を前提としないことも訴えた。

1. 事業の目的と内容

(2-3) 事業の内容：市職員向け研修

研修「性の多様性に関する職員研修」（2020年1月15日 午前:一般職、午後:管理職、富山市役所）



1. 事業の目的と内容

(2-4) 事業の内容：第2回パネル展

「性の多様性と、自治体に求められる取り組み」
 (市職員向け研修の反響の紹介と、SOGIハラ・アウティングの防止に向けた啓発。2020年1月24-24日、富山市役所1階多目的ホール)

令和元年度富山市公募提案型協働事業「『多様な性』について知るための市民・市職員向け啓発事業」

第2回パネル展「性の多様性と、自治体に求められる取り組み」

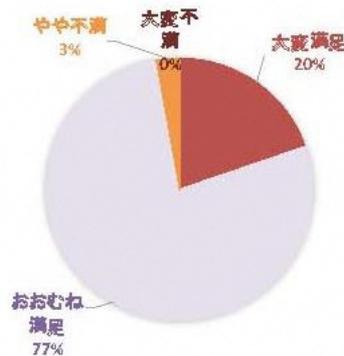
2020年6月から、富山市でも **SOGIに関するハラスメント(SOGIハラ)** や **アウティング対策** を含めた **パワハラ対応が義務付け** られます！

2020年1月15日、富山市職員向け研修会「性の多様性と」で紹介された内容の概要と、

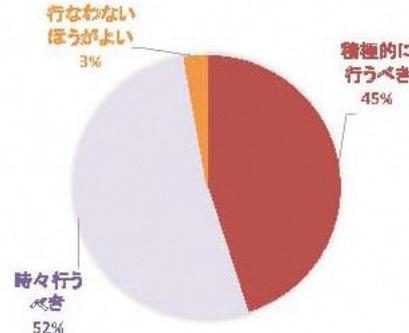
「性の多様性」とは？

人間の性のあり方(セクシュアル指向)や **性自認** している、 **きわめて多様なもの**

5. 研修会は満足のものだったか



6. 今後もこのような研修会を行うべきか



◇…富山市役所で20日、「多様な性」に理解を深める啓発パネル展示写真Ⅱが始まり、8枚のパネルが並んだ。24日まで。◇…性的指向、性自認(SOGI)によって受ける嫌がらせ「SOGIハラ」や性的少数者の困難などが展示された。

◇…来庁者は興味深くパネルに見入った。SOGIハラは誰



2. フィードバックから見えてきた「課題」

(1) 市民向け研修の参加者の声から

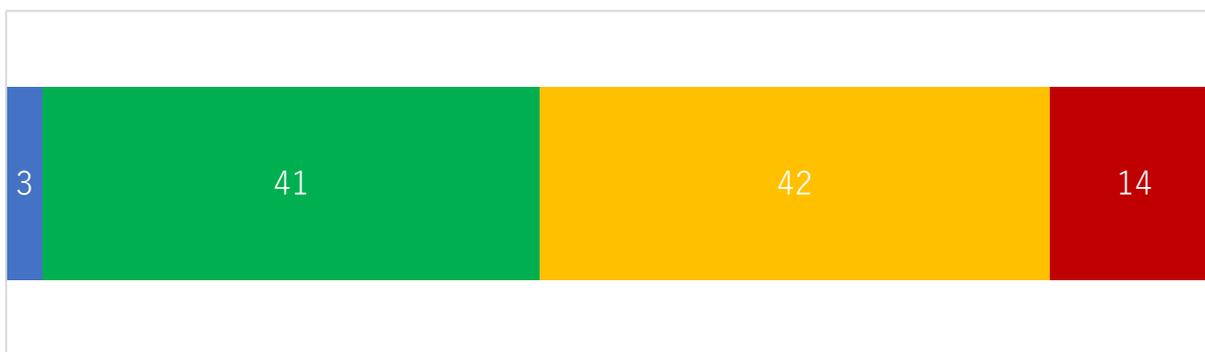
- 「多様な性」について考える上で重要な「**SOGI**」（ソジ。**性的指向・性自認**を意味する Sexual Orientation, Gender Identity の頭文字）という言葉を知った。
- 少数派とされる、いわゆるLGBT（同性愛者・両性愛者やトランスジェンダー）の人々だけでなく、**多数派とされる「異性愛者かつシスジェンダー」**の人々も含め、**わたしたち全員が等しく「多様な性」を**生きている、ということがわかった。
- **SOGIに関わる差別・偏見をなくすこと**が、LGBT当事者だけでなく、**地域や社会の全体、「すべての人」にとって重要な課題**であることがわかった。

2. フィードバックから見えてきた「課題」 (2-1) 市職員向け研修アンケートの結果から

研修参加前の、「性の多様性」問題への関心や理解

- 「（おおいに+すこし）あった」44%
- 「（あまり+まったく）**なかった**」56%

■ おおいにあった ■ 少しあった ■ あまりなかった ■ 41



2. フィードバックから見えてきた「課題」 (2-2) 市職員向け研修アンケートの結果から

研修会後の行動（複数回答）

- 「この問題に**関心を持ち、偏見を持ったり差別をしないようにしたい**」 **55%**
- 「もっと**知識を深めたり、勉強したりする機会**を持ちたい」 **27%**
- 「今回の研修下院の内容を、**友達や家族に説明し、話し合いたい**」 **15%**

- この問題に関心を持ち、偏見を持ったり差別をしないようにしたい
- もっと知識を深めたり、勉強したりする機会を持ちたい
- 今回の研修会の内容を、友達や家族に説明し、話し合いたい
- イベントにもっと参加したり、企画・運営に携わってみたい



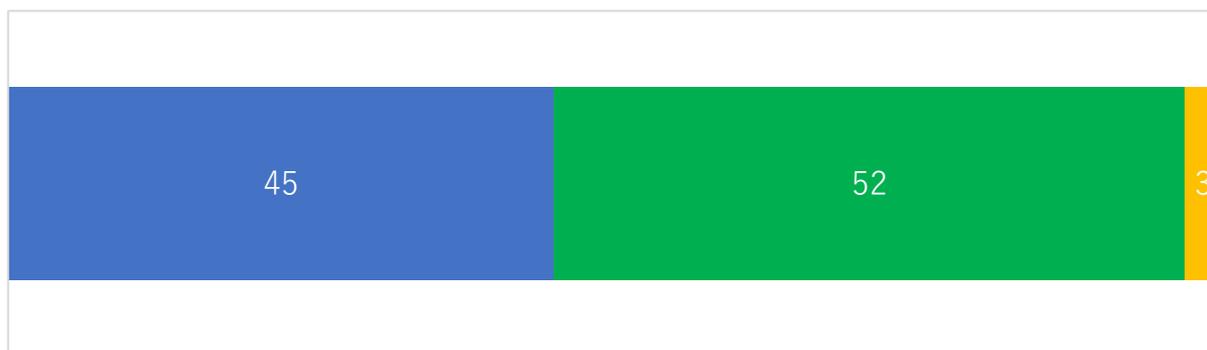
2. フィードバックから見えてきた「課題」 (2-3) 市職員向け研修アンケートの結果から

今後もこのような研修会を行うべきか？

- 「積極的に行うべき」 45%
- 「時々行うべき」 52%

→ 研修参加者中、**97%**もの職員が、「性の多様性」に関する**市職員向け研修を持続的に開催するべき**と回答！

■ 積極的に行うべき ■ 時々行うべき ■ 行わない方がよい



2. フィードバックから見えてきた「課題」 (2-4) 市職員向け研修アンケートの結果から

【特に印象に残ったこと】（自由記述）

- （自分が「同性愛者であることを知られたくない当事者」とであると仮定し、同性の恋人とデートしたエピソードを「異性の恋人と出かけた」「同性の友だちと出かけた」と書き換える、というワークを通じて）**異性愛者ではない人々など、LGBTの人々の日常的な苦労や生きづらさを、リアルに感じることができた。**
- 2020年6月施行のパワーハラスメント対策法を十分理解する必要がある。**
- 正しい知識を持っていないと、加害者になる可能性**があると思う。

2. フィードバックから見えてきた「課題」 (2-5) 市職員向け研修アンケートの結果から

【性の多様性に関し、富山市としての取り組みが望まれる施策・対応】 (自由記述)

- **性的指向・性自認についての侮蔑的な行動やアウトティングがパワーハラスメントに該当する**、ということを**研修等を通して周知**していくことが、今後必要になってくると感じた。
- **このような研修を今後も続けて、職員が性の多様性について理解すること**が、まず初めに望まれると思った。
- **市民向けの研修会やセミナーの開催**。性の多様性について、より多くの人に知っていただき、偏見がなくなるような世の中になればよい。

2. フィードバックから見えてきた「課題」 (2-6) 市職員向け研修アンケートの結果から

【性の多様性に関し、富山市としての取り組みが望まれる施策・対応】（自由記述）

- もしLGBTなどの当事者の方と出会ったら、（あるいは）身近にいた（ということに気づいた）ら、**ひとりの人間としての人権を尊重することを忘れず、よりそえるようになりたい。**
- 役所の申請書には、特に不要なのによく**性別の欄**があるので、**不要なものは消してもよい**のでは？
と思った。
- 当事者の方はどんなことが必要と考えているのか？（調査等を行って）施策に取り入れたらよいと思う。

3. 今後の取り組み

(1) フィードバックを踏まえた分析

・ **市民講座**と**市職員向け研修**の反応の比較

1) 性の多様性について「**富山市の市民**が学ぶ機会」は：

数年前から、**県内の他自治体**や**富山市内の教育機関等**（富山大学を拠点にダイバーシティラウンジ富山が開催するイベント、講演会等を含む）など、**恒常化**や**提供主体の増加**が進む。



とても心強く、
嬉しい知らせ！
協働事業の実施
団体として**市職員**
の方々**と交流**
でき、本当によ
かったです！

2) 他方、「**富山市職員**が学ぶ機会」は：

今回が初めて。アンケートでは、
**今後も「多様な性に関する、持続
的な学びの機会を持ちたい」とい
う強い熱意とニーズが富山市職員
の方々の中にある**ことが顕在化。



3. 今後の取り組み

(2) 市職員向けの取り組み、次の段階は？

行政職員が「多様な性」、および性的指向・性自認に関わる深刻な社会的ニーズに関して見識を深めることは、

- ・ 「**誰も取り残さない**」(SDGsの根本精神)**社会**を目指す**SDGs未来都市・富山市**にとって、**非常に重要な課題**。

→ 同様の目的意識を持った他の自治体は、何をしている？

- ・ **【持続性】** 研修会を**事業化**し、**定期的**に開催。
- ・ **【ローカライズと文書化】** 行政職員が**自発的に**専門家らと**相談**を重ね（あるいは、専門的な知識を持つ外部団体に委託して）、**地域の実情を踏まえたマニュアル**や**ガイドライン**（性の多様性の基礎知識、多様な性を生きる市民の社会的ニーズ、業務の現場で求められる対応等について記載）、**宣言**などの**文書**を作成し（熱意あるリーダーや職員がいなくなったら終わり、にしない）、**現場での周知徹底をはかる**。

3. 今後の取り組み

(3) 【緊急】「パワハラ防止指針」への対応

2019年末から2020年初頭にかけて、大きな変化があった（国会での「労働施策総合推進法」改正、厚生労働省の新指針、いわゆる「パワハラ防止指針」の告示）。即ち、

- 2020年6月から、**全ての自治体**および**大規模事業者**に対し、「**性的指向・性自認に関する侮辱的な言動**」（いわゆる「**SOGIハラ**」）や、「**本人の同意を得ずに性的指向・性自認のあり方を暴露すること**」（いわゆる「**アウティング**」）などが起きないように、**防止措置等を講じることが義務化！**

→ ダイバーシティラウンジ富山も、全国の関連団体と連携し対応を協議中。だが、**県内外の自治体や教育機関等**から寄せられる**研修事業の委託依頼や相談**が想定以上に増えており、業務量が輻輳中…



→ 当団体は人的資源も、対応できる業務量にも限りがあり、**初年度と同規模の協働事業の企画・実施は難しい…**

3. 今後の取り組み

(4) まとめ：協働事業での経験を活かすために

1. ダイバーシティラウンジ富山が拠点を置く**富山大学**では、2019年度から「**学生が旧姓や通称名を使用すること**」が**正式に認められた**。→ 通称名の使用は、出生時に割り当てられた性別や名前に違和を感じる学生にとって、非常に重要な変化。今後も、ダイバーシティ推進に前向きな全国の高等教育機関を拠点とする諸団体やその集合体などと協力し、**他団体が地域の自治体とどのように連携し、どのような成果をあげているのか、自らの経験を他団体に向けて発信するとともに、全国の最新の状況を把握する。**

2. 旧年度の事業を通し、「**性の多様性、および多様な性を生きる市民の社会的要請**への対応」に関して「**知りたい・学べべき**」との**強いニーズが市職員の中に存在する**ことがわかった。→ **市職員向け研修が持続可能な形で事業化**されることを強く期待し、**今後も可能な範囲で協力を続けたい。**（報告終わり）